

インドネシアの屋台

インドネシアではワルンと呼ばれる小さな商店や屋台が、未だ数多く存在します。ショッピングモールやコンビニなど様々な形態のお店が出来ますが、インドネシアの人々にとって一番身近なのはやはりワルンでしょう。

道端にテントを建てたもの、民家の軒先でやっているものなど様々な種類、形態があるインドネシアのワルンでは、飲料水やジュースなどの飲み物から化粧品、石鹸などの日用消耗品に至るまで多くのものが小分けにして売られているため、値段も安く、必要なに応じて買うことができます。そのためワルンはインドネシアの人々の生活において欠かせないものとなっています。



ワルン

多様な種類のワルンがありますが、特に目につくのが、大通り沿いに店を構えたインドネシア料理のワルンでしょう。価格はジャカルタ中心部でもナシゴレン（焼き飯）1皿が100円から200円程度です。またそのほかにも数十円から数百円程度で、さまざまな料理を楽しむことができるため、年齢や収入に限らず、多くの人々が利用しています。

またワルンとは異なりますが、同様に料理を提供するカキ・リマ、アングリンガンと呼ばれるものがあります。

カキ・リマとはタイヤのついた移動式の屋台を指し、直訳するとインドネシア語で五本足を意味します。屋台の二輪とストッパーと店主の二本足の合計で五本足になるためそのように呼ばれるそうです。ワルンほどたくさんのメニューはありませんが、大抵は屋台にメニューを書いた看板を掲げ、値段はワルン同様1皿百円程度で、持ち帰りも可能です。



カキ・リマ

アングリンガンとはジョグジャカルタなど中部ジャワの地域で主にみられる、手押し車の屋台を指します。夕方ごろになると道端にビニールシートのテントを張った屋台を構え、食べ物や飲み物を提供します。長椅子が2脚程置かれ、8人ほどが座れるようになっています。サテ（串焼き）や、揚げ物、ナシ・クチン（バナナの葉で包んだご飯）やお茶、コーヒーのほか、たばこは1本から買うことができます。そしてすべて食べ終えた後に、食べたものを自己申告します。

客層は会社員、大学生、ベチャ（人タクシー）引きなど様々で、隣り合った人が知り合いでなくても、民族や職業に関係なく、世間話や時には真剣な話を、食事をしながら楽しめます。こういった光景はモールの中のレストランでは見られないものでしょう。



アングリンガン



アングリンガンで提供される料理

日系飲食チェーン店のインドネシア進出が話題となる一方、大手ファストフード店も中間所得者層の台頭を背景に拡大傾向にあるようですが、このようなワルン、カキ・リマ、アングリンガンといった伝統的な小売業には、それらにはない奥深さがあります。こういった伝統的な小売業が、近代的な小売業に取って変わられることは、しばらくはないのではないのでしょうか。

以上

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク（P.T. J.C内）概要★

所在地：Rukan Tanjung Mas Raya Blok B-1 No. 38

Jl. Raya Lenteng Agung, Tanjung Barat, Jagakarsa,
Jakarta Selatan 12530 INDONESIA

デスク担当者：PT. JC 武井 和宏（たけい かずひろ）

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託）。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応していません。